

メディアセンターの主な出来事（平成 18 年度）

メディアセンター（本部）

- 電子媒体資料の効率的導入と利用基盤の整備
 - 公私立大学図書館コンソーシアム（Private and Public University Libraries Consortium；今年度より改称。略称は PULC）の幹事校の 1 校として、2007 年分に対する電子ジャーナル、電子ブック、データベースの版元との契約交渉に臨んだ。
 - 一部の版元に対して、代理店を経由しない直接交渉の場を、国立大学図書館コンソーシアムと PULC と共同で持つことができた。
 - 国立情報学研究所と国立大学図書館協会、PULC の 3 者の協力により、Springer/Kluwer、Oxford University Press の電子ジャーナル・バックナンバーへの永続的アクセスを保証する国内共同利用体制が発足した。
 - 11 月から、ITC と共同で環境設定をして、統合認証システム（keio.jp）により、キャンパス外から電子媒体資料の利用を可能とした。
- 資料電子化の促進とデジタルリポジトリの構築
 - 国立情報学研究所（NII）が主催する次世代学術コンテンツ基盤共同構築委託事業（CSI）（第二年次）に応募し、機関リポジトリ構築・運用事業（領域 1）と先駆的な研究開発事業（領域 2）に採択された。
 - 運営にあたっては、総合研究推進機構の下に、学術コンテンツ基盤構築タスクフォースを新設し、事業推進の全学的な政策決定ができるようにした。
 - 収集・構築した学術情報には、流通促進のために検索データを付加し、KOARA（KeiO Academic Resource Archive）によって、11 月から公開を開始した。
- 国際交流の促進
 - 慶應義塾大学が正会員になっている研究図書館連合の RLG（Research Library Group）は、7 月に OCLC に吸収合併されたが、書誌調達は引き続き RLG の総合目録データベースから行った。
 - 6 月にはニューヨークで開催された RLG 年次大会に参加して、今後の RLG のサービスについて、ならびに他機関会員との意見交換をした。
 - 図書館員の交換協定を結んでいるトロント大学図書館から管理職職員 1 名が 10 月に短期間来

訪した。

- 蔵書データ遡及事業の継続
 - 三田メディアセンター所蔵の旧分類和書の遡及入力事業を開始した。あわせて、信濃町メディアセンター所蔵の旧分類図書、三田の学部図書などの遡及入力作業を引き続き実施した。
- 支援業務の継続
 - 致道ライブラリーと東北公益大学大学院の購入図書の整理作業を実施した。
- 次期図書館システム（KOSMOSIII）の検討継続
 - 4 月に次期図書館システム選定 WG を発足させ、『中期計画 2006—2010』における同 WG の位置づけ、果たすべき役割、複数年にまたがる導入計画と新しい図書館システム導入にあたっての方針を確認し、現行の図書館業務と図書館システムの機能を検討して評価した上で、要求仕様書 RFP（Request for Proposal）を作成した。
 - 次期図書館システムの導入と関連して、電子資源管理システム（Verde）とリンク解決・ナビゲーションシステム（SFX）の二つを先行導入した。

三田メディアセンター

1. 学術情報基盤の整備

事業計画としても掲げている学術情報基盤の整備として、機関リポジトリの構築に向けた本部プロジェクトに協力し、三田の学会・研究所のデジタル化された紀要類を KOARA（KeiO Academic Resource Archive）に搭載し 11 月に正式公開した。また継続的な登録を可能にするため、学会や慶應義塾大学出版会との調整を行い電子出版化について検討を行った。

2. 図書予算

電子ジャーナルの購入価格の高騰などを要因として、図書予算の運用が年々厳しくなっている。特に一部の学部では予算が逼迫してきており、継続を中止するタイトルを検討しながら運用している。象徴的な出来事として、有価証券報告書の印刷体の継続購入中止を実施した。一部教員からは反対意見はあったものの、全体のバランスを考慮しての判断として学部からの賛同も得つつ購入中止に踏み切った。研究・教育に支障のないように電子資源の購読を図書館図書予算のみで支えていくのははや困難になってきており、各学部の図書予算にも図書資料

費枠を設けてもらうなど、学部と一体となった取り組みが2007年度以降の課題となる。

3. 目録データ遡及の進捗状況

目録データの遡及入力は一貫した課題とし、予算・人手を捻出しながら取り組んでいる。2004年度より継続している学部図書に加えて、2006年度には旧分類洋書の遡及をほぼ完了し、旧分類和書の遡及入力に着手した。

4. ホームページ

三田メディアセンターホームページについて、「求める情報を探しやすくすること」「案内重視から検索系のサービスを前面に打ち出すこと」を目標にリニューアルを行った(5月に公開)。ホームページの企画・運営は各部門の代表者から構成されるホームページ委員会を主体として行っていたが、今回のリニューアルを機にマルチメディア担当を主管部署と定め管理体制を確立させた。コンテンツ管理システム“Plone”をプラットフォームとして導入した点は、これまでの取り組みと大きく異なる。シンプルなデザイン・構成を意識しつつ、OPACの簡易検索窓をトップページに配置するなど、利用者にとってより使いやすいホームページを目指した。オンラインリクエストなどのデザイン変更が今後の当面課題となる。

5. 施設・設備

2007年度は新館開館25年となる年である。ここ数年継続してきている館内インフラ刷新を目的とした大規模工事もそろそろ終盤を迎えつつある。今年度大きなものとしては、全照明設備の交換工事のほか、洗面所の全面改修工事が2004年度からの3ヵ年計画の最終年度となった。また地下4階電動集密書架について、基盤回路の故障が頻発する状況であったが、全書架の操作パネル一斉交換工事を夏季休業期間に行った。大規模工事であるがゆえに工事期間も数ヶ月に及ぶものが多く、その間利用者には迷惑をかけることになるが、一方で工事終了後には見違えるように改善されており、快適な利用空間の維持への効果は大きい。さらに、館内のセキュリティ強化を目的に、2004年度より防犯カメラの設置・増設を継続している。2006年度には「三田メディアセンター防犯カメラ運用規則」を作成し、運用面での安定化を図った。このほか、予算管理部門内調整費を活用して、利用環境の整備に努めた。旧館のBDS装置の刷新のほか、これまで長年手をつけられずにいた閲覧椅子の補修、買い替えを大々的に行った。

6. 貴重書展示会

毎年恒例の慶應義塾図書館貴重書展示会が20年目の節目を迎え、これまでを振り返る意味も込めてコレクションの中から選りすぐりの貴重書を広く展示する「義塾図書館を読む～和・漢・洋の貴重書から～」を企画した。展示資料の一つ「華嚴経」の学術的価値が報道され話題となった。

日吉メディアセンター

1. 学生の利用環境向上

- ・3階東閲覧室に多読書コーナーを新設(学生が英語図書を多読できる環境を整備)
- ・2階東閲覧室(バルコニーコレクションの一角)に塾員著作コーナーを新設
- ・レファレンスコーナーの椅子の入替え
- ・CD-ROM, DVD-ROM 検索システムを導入(ディスクの出納が不要, マルチOS対応)
- ・防犯カメラを設置(西側閲覧室, 中央廊下等, 以後館内での盗難が減少)
- ・新着図書展示用書架を背が高く見やすいものに交換
- ・入口付近に展示用パネルを設置(展示以外に利用案内類の配布にも使用)
- ・3階雑誌室の机を仕切り・個別照明付きのものに交換, 既存の6台のうち4台を2階のグループ学習室へ移設(騒音・老朽化対策, 机上の照度不足改善)
- ・ブックチェックユニット(無断退出防止関連装置)を交換(誤動作が発生していた2台)

2. 施設・設備の改善

- ・学生用エレベータ交換(火災・地震時運転制御機能付き)
- ・全ブラインドの交換
- ・照明器具交換(1階中心, 次年度以降継続)
- ・外壁補修・洗浄(南面, 西面, 次年度継続)
- ・ウォータークーラー交換(6台のうち4台)
- ・地下書庫カビ対策工事(前年度以来のカビ発生への対策 除湿機設置, 殺菌装置設置, 書庫改造(通風改善))

3. 情報リテラシー教育プログラム関連

- ・利用案内ビデオを作製(1998年以降の作製), Web ページで公開, 新学期のオリエンテーション等で活用
- ・利用案内を次年度用として大幅に改定し作成
- ・館内MAP(フロアガイド)に代わりセルフガイドを作成
- ・英語版KITIEを完成

- ・日本語版 KITIE のうち未完であった資料集・用語集を公開(「KITIE の構築」で私立大学図書館協会協会賞を受賞)
- 4. 書庫狭隘化対策
 - ・1972年までに受け入れた新書・文庫の一部, 約1,400冊を除籍
 - ・1981~85年に登録された請求記号Bの図書(約35,000冊)につき, 他地区所蔵, 利用頻度などを考慮し除籍(継続中)
 - ・研究室雑誌のうち, 電子媒体で利用でき, 他地区所蔵のものの一部, 約1,000冊を除籍
- 5. その他
 - ・選書室を慶應義塾大学出版会に貸出(新教育棟建設工事により2009年3月まで)
 - ・閉館放送を自動化
 - ・事務室・貴重書室の個別空調化
 - ・地下の旧清掃業者控え室を倉庫に改装

信濃町メディアセンター

1. 保存書庫撤退

信濃町メディアセンターは, 旧厚生女子学院学生寮の一室を保存書庫として利用してきた。保存書庫には古いレファレンス資料の他, 貴重書や古医書, 博士論文などが収められていた。

平成18年8月末に共用施設棟(仮称)建設のために寮が解体されることになり, 保存書庫の資料は廃棄もしくは移動を余儀なくされた。主に廃棄の対象となったのは, 電子化されている書誌索引などのレファレンス資料であった。残った資料は信濃町メディアセンターや他地区メディアセンター, 白楽サテライトライブラリー, 貸倉庫で分割して保管することになった。なお, 貸倉庫に預けたレファレンス資料については, 事実上利用不可能となっている。

2. JMLA 医学図書館員基礎研修会開催

第13回医学図書館員基礎研修会が, 平成18年8月2日(水)~4日(金)の3日間, 信濃町キャンパスで開催された。この研修会は日本医学図書館協会(以下JMLA)が主催し, 今回は慶應のスタッフが実行委員長および事務局を務めた。

「ヘルスサイエンス情報専門職の基礎: 医学教育改革をふまえて」をテーマに開催された本研修会には, 全国から81名が参加した。研修会史上最多の参加者数であった。その多くはJMLA会員の図書館員だったが, 関連企業からの参加者も数名含まれていた。

研修会は盛況のうちに幕を閉じ, 終了後も多くの

参加者が信濃町メディアセンターの見学に訪れた。

3. Leishman 氏講演会開催

平成18年10月24日(火)に, トロント大学 Gerstein Science Information Centre 館長 Joan Leishman 氏の講演会が信濃町で開催された。講演は“Canadian academic health science libraries: cooperation and collaboration”という内容で, JMLA 関東地区会と慶應の共催であった。病院図書室などからも多数の参加があり, 有意義な意見交換ができた。

講演会の翌日, Leishman 氏が信濃町メディアセンターを訪問。氏と専任職員でこれからの医学図書館とそのサービスなどについて懇談した。

理工学メディアセンター

1. 広報

- ・利用案内ビデオの上映期間を年4回定期的に設けることを決定して開始
- ・ホームページに利用案内ビデオへのリンクを追加
- ・ホームページに企画展示 Web 版『写真で辿る理工学部の歴史』へのリンクを追加
- ・理工学メディアセンターメールマガジン第21号~37号を発行
- ・理工学メディアセンターニュース No.86~97を発行

2. 利用環境の改善

- ・利用者用 PC 38 台とプリンタ 2 台のリプレースおよび ITC 標準ネットワーク環境への移行
- ・1階の入口にブック・リターン・ポストを新設
- ・PC エリアにミニ・ギャラリーを開設
- ・2階閲覧室奥に LAN/電源敷設完了(平成18年度工事申請)
- ・創想館地下のプレゼンテーションルームに LAN と電源を 20 本敷設(予算管理部門内調整費)
- ・本館2階のキャレル・エリアを刷新【LAN+電源込み】(予算管理部門内調整費)
- ・ホームページのトップページに「OPAC 簡易検索窓」を追加
- ・ホームページに「電子ブック」の項目を追加

3. コレクションマネジメント

- ・洋雑誌契約リニューアル価格交渉(5社, 10月12日~17日)を行い, 2007年リニューアルにあたっては, 利用者アンケートの結果に則して, 86タイトルをEJ化し, 4タイトルをカットす

ることに決定

- ・過去7年間貸出記録がない複本を除籍(523件)
 - ・007番台図書で内容が陳腐化したものを除籍(234件)
 - ・Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG) より75冊のドイツ関連理工学分野研究図書の寄贈を受け入れ(塾名誉教授 Hans Kurt Toenshoff 氏の仲介)
 - ・学生用図書の購入のために予算管理部門内調整費を100万円ほど配分
4. 管理運営
- ・「理工学メディアセンター基本内規」および「理工学メディアセンター運用内規」を制定・施行(6月19日)
 - ・入館統計の入館者区分を変更(学年別細分化)
 - ・カウンターと事務室の間に非常チャイムを設置
 - ・NDL「レファレンス協同データベース」作業参加登録完了
 - ・数理科学科図書室の業務システムリプレースを支援
 - ・閲覧カウンター内の扉の付け替え工事(平成18年度工事申請)
 - ・別館地下の動きの悪かった電動集密書架の基盤と安全装置を全て交換
 - ・別館地下に集密書庫54連を設置(予算管理部門内調整費)
 - ・本館1・2階の製本雑誌の蔵書点検(2月5日～3月2日)

湘南藤沢メディアセンター

1. 1階オープンエリア等施設関連

- ・メディアセンター1階オープンエリアは前年度の2～3月に大規模な改修工事を行い、2006年4月から利用を再開した。3つのカウンターを含む内装を一新し、各種機器を利用目的別に再配置した。また入館ゲート設置位置を変更し、周辺のスペースを充分にとることで、よりスムーズな入館が可能となった。9月に大型モニター視聴ブースのモニターを46インチハイビジョン対応液晶テレビへ置き換えた。10月には大画面電子掲示板を2台設置し、開館時間や各種サービス案内、利用者セミナーなどの広報に使用している。
- ・前年度の地震時の経験を踏まえ、5月に3階書架の一部に感震式落下防止装置を取り付け、地震対策を強化した。また8月には各階に非常誘

導灯の設置、2階レファレンスセクションの照明器具交換を行った。10月には一部階段に側板を取り付けた。

- ・メディアセンター外では、夏にκ11教室およびλ11教室、3月に大講義室棟(θ館)の施設改修工事を、マルチメディア担当がAV環境を含む中心的な役割を果たして実施した。
2. Webサイト関連
- ・10月にメディアセンターのWebサイトをリニューアルした。トップページは利用者行動の視点からサービスをカテゴリー分けしたデザインにした。施設予約システムも拡充され予約状況がリアルタイムで表示できるようになった。各説明ページの構築システムにはMovable-Typeを採用し、編集作業を軽減するよう設計した。またニュース部分ではRSS機能を通じて更新情報の配信を行っている。
 - ・9月には先行してデータベースナビSFC版を公開した。以前の三田・日吉・SFC合同データベースリストに比べ、データ管理が容易になりタイムラグの少ない更新が可能になった。分野や資料タイプ、キーワードからの検索機能も飛躍的に向上した。
 - ・SFC教員がプロジェクトで作成した国勢調査データベースを、教員の協力により11月からWeb上で公開を始めた(SFCキャンパス内に限定)。
3. 神奈川県内大学図書館相互協力協議会関連
- ・4月に会長館に就任した。任期は2年。5月に総会を行いメディアセンター所長である金子郁容教授に講演いただいた。また11月には実務担当者会を主催し、地域連携についての講演とグループディスカッションを実施した。10月に会報第36号、2月に37号を発行した。
4. その他
- ・6月に故森川英太郎氏のご遺族より寄付金100万円、ビデオ、DVDの寄贈
 - ・6月よりHDV規格ビデオカメラ貸出開始
 - ・7月よりSFC YEARBOOK委員会(学生団体)作成の館内飲食マナーキャンペーンポスターを掲示
 - ・7月より蔵書調整プロジェクト(移管、配置場所調整、継続中止、除籍計画)開始
 - ・3月に利用案内ビデオの新版を制作
5. 看護医療学図書室
- ・図書室入口前の廊下に電子掲示板を設置し4月

17日より運用を開始した。掲示板には、開室時間やお知らせなどを表示している。図書室は、看護医療学部校舎の2階にあるため図書室の位置がわかり難かったが掲示板がサインの代わりにもなっている。

- ・ NDC 分類 916 の手記や、疾病の分類別に配架されていた闘病記本を再整理し、『闘病記文庫』としてコレクションにまとめた。タイトルからでは病名がわからないため背に病名を表示し5月1日よりタイトルリストをホームページで公開した。
- ・ 5月17日、開架書架の上段と閲覧席側の書架140段に感震式書架落下防止装置を設置した。これは2005年7月の地震で本の落下被害があったことを受けての安全対策である。
- ・ 雑誌の利用度調査を7月22日から3月31日ま

で行った。利用者が閲覧・複写利用した雑誌を書架に戻さず返本台に戻してもらい統計をとった。また、学外からの文献複写依頼タイトルについても統計をとった。購読雑誌の見直しの参考にする予定である。

- ・ 2007年度に開設される健康マネジメント研究科博士課程用図書選書リストを図書室で作成し11月15日に看護医療学部と健康マネジメント研究科教員に配布した。約180冊の希望があり他地区との重複を除いて購入した。
- ・ 図書室内にあるグループワークルームの1部屋に40インチのディスプレイを設置し3月26日よりサービスを開始した。より活発なディスカッションを行う場として利用されている。
- ・ 健康マネジメント研究科1期生の修士論文のOPAC登録が3月23日に終了した。